

幸せな暮らしと税

大田原市立大田原中学校 3年 君島 陽依

「どうして私だけお金貰えるの？」

当時小学生だった私は、時々先生に渡されるお金を疑問に思い、母に尋ねた。

私は幼いころから母子家庭で育った。母は仕事が忙しく、小さい頃はよく祖母の家で母の帰りを待っていた。小学校高学年になると、一人で家で過ごすことが増えたが、私は何不自由なく暮らしてきた。そして私は母に見送られながら毎日元気に登校した。ある時私は、先生に渡される少し重たい封筒を疑問に思った。その封筒には決まってお金が入っていたのだ。いつも封筒を渡されるのは私だけだった。私は思い切って母に聞いてみた。

「ねえお母さん、この封筒何？ どうして私だけお金貰えるの？」
すると母は静かにこう答えた。

「うちはお母さんだけだから、市から支給してもらえるんだよ。」
初めて知った。私が今まで普通に生活できてきたのは、一生懸命働いてくれていた母と、市からの支援のおかげだったのだ。その時、母にこんなことを言わせてしまったことの罪悪感と、母への感謝の気持ちが同時にこみ上げてきて、何も返すことができなかった。

私がもらっていたのは「児童扶養手当」という、税金からまかなわれる補助金だった。今回、税について調べたところ、他にも医療費を助成してもらえる制度など、たくさんの支援を受けていたことが分かった。私は税金からの支援のおかげで普通の生活ができていたのだ。普通の生活ができることがどれだけ幸せなことなのか、私は税金を通し改めて知ることができた。

税金は払うばかりでなく、思わぬところで私たちの暮らしを支えてくれていた。このことを身をもって感じた私は、税金に感謝しなければならない。自分が納めた税金は誰かの暮らしの支えになり、誰かが納めた税金が自分の暮らしの支えにもなっている。こうして国民が国民を互いに助け合っていたのだ。現在、私はまだ中学生で、税金を納めることよりも、税金にお世話になっていることの方が多くある。幸せな暮らしがあたりまえにできていることに心から感謝し、進路の実現に向け学習に励んでいこうと思う。そしていつか私が社会人になったとき、社会に貢献できる仕事に就き、今までの恩返しを社会貢献という形で返していきたいと思っている。

そして今回、税について真剣に考えたことで、日本国民の生活が豊かになっているのは税金のおかげだということが分かった。国民一人一人が納めている税金で、日本国民全員の幸せが実現することを私は願っている。